

【配点】

1

各1点×10

2

3

1

4

1

2

4

5

3

7

各2点×20

5

5

6点

その他

各4点×11

1

権利

清算

専念

垂直

仮装

6

担任

温泉

げどく

ちゅうげん

わこうど

2

イ

エ

ウ

×

エ

3

×

○

×

×

○

○

○

敬意

表現

表現

表現

表現

表現

表現

表現

表現

表現

4

ウ

イ

たり

も

と

3

固

い

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

いる

4

抜擢され

ると、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

同僚の妬みを買う

と、

4

宝くじに当た

ると、

たかりにくるのがいる

と、

たかりにくるのがいる

と、

たかりにくるのがいる

と、

たかりにくのがいる

と、

たかりにくのがいる

と、

たかりにくのがいる

と、

たかりにくのがいる

と、

5

バランス

よい

い

んで

い

んで

い

んで

い

んで

い

んで

い

んで

い

んで

7

絶対にない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

ない

5

地図

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

ガラス

5

道が何を言おうとして

いるのか

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

が

5

つかめず、不思議に思

っているか

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

6

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

6

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

6

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

6

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

エ

① (漢字の書き取り・読み取り)

1 から10までの漢字は全て、ベーシックのトレーニングテキストにて出題されているもの、あるいは、既に習っているものである。2の「清算」は同音異義語に注意すること。3の「専念」は字形に十分気をつけて書く。「専」の右うえに点がついているものはよく見られる誤字である。また、8の「解毒(げどく)」を「かいどく」と読まないように注意しよう。

② (主語・係り受け)

主語を問う問題であつたが、解く手順としては述語を先に確認すべきである。そうしないと、主語のないものでつまづくことになる。また、2のような倒置の文には注意しよう。

③

1 敬語表現はきちんと使えるようにしよう。尊敬語・謙譲語の使い分けと、その形については徹底的に身につけるとともに、特別表現は覚えきってしまうこと。Aは謙譲語を使うべきところが尊敬語に、Dは尊敬語を使うべきところが謙譲語になっている。B・Eは「お目にかかる」「うかがう」という謙譲語を覚えていればよい。Cは「召し上がる」と「れる・られる」の組み合わせなので二重敬語である。

2 敬語は敬意の表現だと考えるだろうが、なぜ使うのかについて、文章をもとに改めて考えてみよう。「心底尊敬している」わけではないが、「敬語を使うかどうか」は「話手の意図次第」と書かれていた。そこで、「敬語」を使う意図とは「敬意を示す意図があることを表現している」というものであつた。実際に心底尊敬しているかは別にして、尊敬していると見える必要はあると感じている、ということである。

④

1 Iは「残念」に感じられるが、別の見方もできる、という内容なので逆接を入れる。IIは「よほどの努力か」「よほどの好運か」「両者が重なったとき」という可能性があるということになるので、「あるいは」がよい。

2 Aは直前に「たり」があることから、「くたりくたり」とそろえる。Bは直前に「も」があることから、「くもりも」とそろえる。Cは「ふたつよいこと」は「さてない」ので、よいことがあるときには悪いことがあるだろうと考えて、条件の言い回しになるようにする。

3 直前に「したがって」とあるので直前も理由であるが、問題の指示にあてはまらない。直前に書かれた法則の内容だけでなく、「法則」と言ってしまうことにこめられたニュアンスも気に入らないということが文章後半に書かれていた。

4 段落冒頭の抽象的な言い回しは、後続部分で具体的に説明されることが多い。ここでも、直後を用いればよい。

5 よいことと悪いことはどちらかに偏ることがない、ということとはつまり、「バランス」がとれているということであろう。

6 同じ段落の冒頭に「人間はよいことづくめを望んでいる『ので』何か嫌なことがあると文句のひとつも言いたくなってくる」とある。「無用の腹立ち」と「文句のひとつも言いたくなってくる」ことを対応させればよい。

7 直後に「そんなに固い絶対的真理を述べているのではないのだ」とあるので、⑤には「固い絶対的真理」と受け取られるような内容を入れるのだと判断する。

8 ⑥は「うぬぼれ」から、「自分の力を過大に評価することだ」と考える。⑦は「あらかじめ準備する」ことで難を軽くすることについて述べているから、「積極」的だと判断したい。

⑤

1 本文前半は羽衣子と西尾さんの会話が中心となっている。冒頭の羽衣子の言葉に対しての説明が続いた後に西尾さんが「ええ、だいじょうぶでした」と返答している。会話の様子をイメージしつつ、その話題をつかみながら読み進めよう。

2 文章全体を通して、西尾さんが「骨壺」を求めていることは明白であろう。設問の文言、①で作られた②に注目する。羽衣子と道はガラス工房を営んでいるのである。道が「枚方の繁実硝子製作所」に行っていたこともヒントになる。

3 Iは「ない」を「ぬ」に置きかえることで区別できる。「ぬ」に置きかわるA・ウ・エが「助動詞」でイは「補助形容詞」である。なお、エの「(い)ない」は「(おら)ぬ」と考えればよい。IIはA・イ・エが「副詞」であり、ウは「形容動詞」である。

4 羽衣子が「痛み」を感じる理由として、西尾さんが見初めた作品に注目する。それらの作品は羽衣子ではなく道の作品であり、自分よりも道の作品がお客さんの手に取られるのは「いつものこと」でありながらも、やはり羽衣子にとっては道(や祖父)への劣等感を刺激されてしまうことにつながるのである。

5 羽衣子の考えを答えること。設問の指定に注意して「当惑」を言いかえつつ、そうなる理由も補えばよい。ここで羽衣子は、西尾さんが道の言動の意図がつかめないで困っていると考えているのである。

6 「商人」として、このままだと道の独特な人となり客が許容せず、作品が買われないかもしれないと危惧したのである。

7 1「しめし(示し)」2「かんか(看過)」3「いさかい(諍い)」4「みずうみ(湖)」5「ちかみち(近道)」6「のりもの(乗り物)」である。

8 脱文補充問題では該当の一文を精査し本文にもどすための手がかりをつかむことも当然大切だが、そもそも通読時に文脈を意識することもまた肝要である。へーの前後での羽衣子と西尾さんのやりとりは違和感を覚えることができていたなら容易であろう。「あちらがそうなの」「あちらにあるのが(ガラスの)骨壺なの」であり、「骨壺」という単語を、西尾さんはつかわなかった」につながり、さらにその後の「ええ、そうです」につながっていく。

以上